



情報提供資料

TDAMフオワード・ルッキング・リサーチ

債券運用部 ストラテジスト兼ファンドマネージャー 浪岡 宏

2019年9月12日

～米国の設備投資はターニングポイントか？～

米国で先週公表されました8月のISM製造業指数や雇用統計などをみますと、製造業の減速感がうかがわれ、にわかにメディアなどでも注目を集めています。

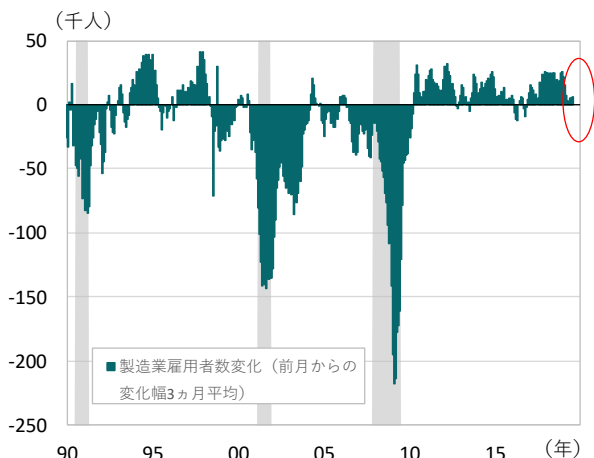
8月のISM製造業指数については、3年ぶりに50を割り込み49.1となりましたが、とりわけ懸念されるのは、新規受注が2012年6月以来の低水準、新規輸出受注も2009年4月以来の低水準となるなど先行的な指標が低迷しており、ISM製造業指数が今後さらに低下する可能性があるということです。

また8月の雇用統計についても、非農業部門雇用者数が約13万人増と市場予想の約16万人増を下回り、やや力強さに欠けましたが、それ以上に注目されたのは製造業の雇用者数の動向です。市場では約5千人の増加が予想されていましたが、結果は約3千人の増加にとどまっただけではなく、前月分が約16千人増加から約4千人の増加へと大幅に下方修正されました。こうしたこともあり、昨年秋頃から製造業の雇用者数の伸びに減速感が強まっています(グラフ①)。

そもそも今年の4-6月期GDPにおいても、設備投資は前期比年率約0.6%減少と2016年1-3月期以来のマイナス成長となりました。特に、機器は設備投資サイクルを鮮明に表す傾向が強いとされますが、1-3月期から既に伸び率の鈍化が鮮明化しています。さらに耐久財の出荷と在庫の動向を見ましても、減速感が強まっています(グラフ②)。

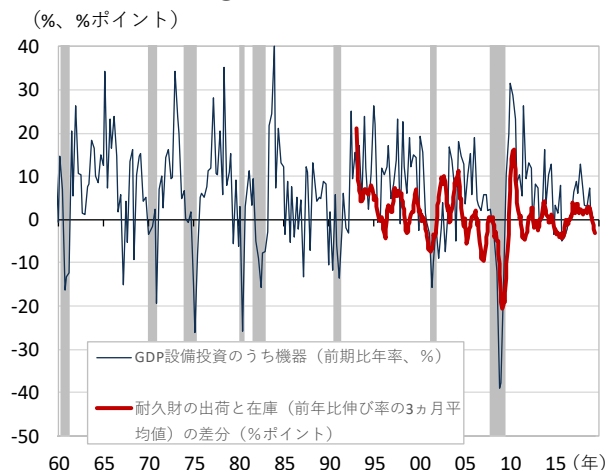
これまで米国の長期金利が低下基調で推移してきたのは、米中貿易問題への懸念とともに、こうした米国経済の変調を先取りしての動きであったようにも見受けられます。従いまして、更なる金利低下の余地は限られると思いますが、金利の反発上昇は当面見込みがたいと思われ、米国株式市場についても上値が抑えられる状況が続くとみえています。

グラフ①製造業の雇用動向



期間：1990年1月～2019年8月（月次）
網掛けは景気後退局面

グラフ②設備投資関連の動向



期間：機器は1960年1月～2019年6月（四半期）
耐久財は1960年1月～2019年7月（月次）
網掛けは景気後退局面

出所：Bloomberg等の各種資料をもとにT&Dアセットマネジメントが作成

【ご留意事項】本資料は、T&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成したご参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。本資料は作成時点での見解であり、今後予告なく変更する場合があります。ご投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断ください。